

# HAND in HAND

はんど・いん・はんど

ボランティアが生活の一部

■引っ越して3ヶ月が経ちました。まだ以前の事務所のまわりの神宮前や青山のほうがなつかしいのですが、新しい土地にも慣れなさんと、時間を見つけては千駄ヶ谷界隈を歩いています。駅の反対側の新宿御苑は今、紅梅白梅が清楚な花をつけ、寒桜、サンシュユ、連ぎょう、椿が咲いています。歩き疲れると茶室で桜餅と抹茶を愉しんで。

■もうすぐ桜の季節です。人出の無い時を見はからって花見に行く予定です。10数年前、誰もいない高遠の城跡の彼岸桜の美しかったこと。

■閑話休題。先日、東京のいのちの電話におうかがいした時、斉藤友紀雄先生がおっしゃってました。「英語のいのちの電話で相談員をしている人にばったり、ある国の大使館のパーティで会うと、大使夫人だったりするんです。企業の駐在員の妻も大使館員の妻も赴任したその日から、ボランティアで働いてくれる。外国へ行っても日本人だけかたまって、いつまでもお客様のままの日本人とは大違いです」と。日本でボランティアがなかなか根づかないのはどうしてでしょうという私の質問に、斉藤先生は「欧米では、ボランティアが生活の一部になっている。ライフスタイルとして定着しています」と。

■私たちの「離婚110番」は週に1回だけのお粗末なものです、それでも多くの人に利用され、また多くのボランティアに支えられています。全くの手弁当で来てくれている相談員たちは全員、忙しい人たちです。でもみんな活動的で時間の使い方がうまく、年齢よりずっと若々しい。ボランティア活動は「若さ」という効用ももたらすのでしょうか。（円より子）

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第107、108合併号

400円 禁無断転載

【発行日】1990年4月1日

【発行所】現代家族問題研究所  
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-23-504  
〒151 電話03(402)7354、4385

【発行・編集人】円 より子

【編集スタッフ】有賀佐知子

【印刷】(株)日出島

108

# 地方の会も盛況です!?

現在、全国にあるハンドの会でもっとも長い歴史のあるのは、大阪です。松尾道子、竹川幸子両弁護士との協力を得て、離婚講座や合宿など、七年半にわたって充実した活動が続けています。

そんな大阪の友の会に、去る二月九日、円が久しぶりに参加しました。ちなみに、一九八二年七月七日の第一回には、十カ月のお腹をかかえての出席だったんです。

さて、当日、離婚講座のあと、場所を移しての二次会は、子供を含めて十八名が集まり、にぎやかで楽しい会となりました。初めて参加した人、おなじみの人などの自己紹介をかねたひと言を、紙上でご紹介しましょう。

まず、世話役の さんに、会の様子から話していただきました。

一番離婚のピークだった五十八年に、調停離婚をしました。もう何年たったか忘れるぐらいです。自分が非常に苦しかった時に、講座でいろんなことを教わっただけではなくて、ああ自分一人ではないんだ、共に支えあえる仲間がいるんだということに非常に勇気づけられましたので、自分が解決し

た後、困っている人の気持ちがよくわかりますので、なにかお役にたてればということで、連絡係を引き受けたんです。

今子供と二人暮らし。最近とらば一ゆしたんですけれども、二十年近く貿易商社でセクレタリーの仕事をやっていました。そこで一生やるつもりだったんですけれど、竹川先生の方からお話しいただいて、竹川事務所法律事務の仕事をするようになりました。

いろんな形でハンドとも関わってきましたので、これからいろいろな形で関わっていきなすと思いが、世情が変わってききましたので難しい部分はありますが、公だけではなくて私の部分でもお役にたてることがあれば、力になれればと思います。私の陰でいろいろ支えて下さっている方もあります。

どうして大阪の会がこれだけ長く続いたかと言いますと、大阪というところの特性でもあると思うんですが、自然体というか、あるがままでやってきたところがあると思います。できないことをやらないこと、できる範囲でやりましょう。だから大阪のハンドの会は、勉強会とかは一切抜きで、遊びま

しょう。子供と一緒に遊びましようというときには、ビクニックに行きます。大人だけでゆっくりしゃべりたいときには、合宿と称して、子供を寝かせてからウイスキーをだしてきて、夜の二時三時まで、語りあかしたりして、気持ちのうえでの連帯ができてきたと思うんですね。

家族で旅行するとかいろいろ形はあると思うんですけれども、大勢の方が楽しい。子供同士も連帯ができていますので、今まで一泊二食で一万円という合宿もありましたけれども、一年に一回、その日のためにせっせと働くのもひとつの生き方ということで、みんな割り切って、参加する人は参加してくれています。経済的に苦しいとか、時間的に都合がつかないという人は、昼間だけの参加もしています。

だから一年に一回しか顔を合わせなくても、みんな相通ずるといふところができてきましたので、これからまだ渦中の人もありますし、いろんな問題を抱えている方もいるでしょうが、きりがついたら、あーいはいきりがつかなくても、何か共鳴できるものがほしいなと思わ

れたら、そのつど催しはハンド紙上で案内をしますので、いつでも気軽に参加して下さい。特別になにもありません。ただもうやりたいうようにやって、楽しくやりましようというのが、大阪の会のひとつのモットーです。

H 初めて参加しました。三三歳で、子供は九歳の子が一人です。今まで離婚しようかどうかというか一人で考えていたんですけれども、だんだん差し迫ってきて、ここらで決めなければあかんなと追い込まれてきたんです。そういうときに一人で考えていては決心がつかないので、ここに来ていろいろな人の話を聞いてみるのも勉強かなと思って聞かせてもらいました。ここに来るだけでも勇気がいったんですが、少しでも前向きに、と思っで……。まだ迷っているときですけれども、どういう結果になって後悔しないようにするために、今一生懸命いろいろな人の意見を聞いて、決めていこうと。

んばっているから考えてあげよう」って言うてくれたんですね。一人で思っているよりいろいろ相談した方が、あかんと思っていたことも開けたみたいなので、行動してみるのがいいことだなと思って今日来たんです。

M 別居と離婚で通算六年になります。仕事は看護助手をしています。子供が二人いて長男は今年二十歳になり働いていて、父親の方にいます。ときたま家にきています。下は女の子で、高校一年です。

今一番の私の悩みは、もうすぐ十七歳になる子供の問題です。私にすれば、なんか問題を起こしそうなハラハラする毎日で、年齢的なこともあるかと思うんですけれども、たった一回ですけれども、お酒を飲んで帰るときがあったんです。別れた夫には全く相談していません。別れた理由が理由でしたので、子供の方が拒絶しています。

X 初めて参加しました。離婚については何年前に考えたんですけれども、子供が小さかったことと親も助けてくれましたので、そのときはそれでよかったんです。でも、同じことの繰り返しで、今度は（離婚を）決めようかなという

う気持ちがあります。ただ、三人の子供のこととか、今はパートの仕事しかしていませんから、経済的にどうするかとか、考えなければいけないことがたくさんあります。ですけれども、友達にも離婚をした人がいませんし、相談できる経験者がいないんです。それで今回新聞で見たので、今日はお休みをとってきたんです。

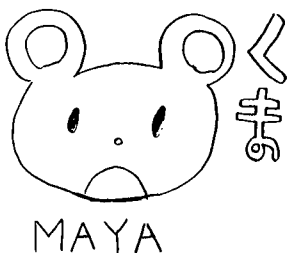
T まだ籍が抜けてないのですが、結婚生活十三年。五月にこたごちがありまして、九月に浜松からこち（大阪）にきました。誰も知っている人がいないものですからいろいろな本を読んでこの会を知って参加するようになりました。今日で二回目です。

私は友達に離婚をしていたので、自分だけじゃないなと思ってなんとか毎日を暮らしています。十三年というのは短いようで長いものですから、なかなかきれいには切れませんが、しょうがないなというところで、がんばっています。子供はいません。

N 結婚して五年、別居して一年弱です。円さんの本を読んで、この会を知りました。今は経理の学校に通っていて、職探しをしてい

ます。いいところがあったら紹介して下さい。銀行で外為の仕事をしていたんですけれども、プランクが大きいのでその仕事には就けないんじゃないかと思い、経理だったら間口が広そうなので、簿記の資格の二級に挑戦しようかなと思っています。夫のことは片隅にあるんですけれども、なにか目標をもって前向きに生きていこうかなあと決心しています。子供はいません。

T 私と円さんの本を読んでこの会を知り、入会して三カ月になります。最初のころよりは明るくなったと言われるようになりました。家でこたごちしているのですが、外に出たら、という皆さんの意見を聞いて、今選挙期間なので市役所の方でアルバイトをしています。主婦業十六、七年なんですけれども、初めてなんです、勤めたのは。それも九時から五時十分というフルタイムで二週間以上がんばっています。





す。私にもやれるんだな、という自信をつけていて、世の中とかいろんなことをちょっとずつ考えていけるようになった。やっぱり外に出ないとだめだなということ、実感として感じます。

N 夫が単身赴任中に、赴任先で女性と関係ができたんです。それで、私が仕事を始めたばかりのときに、夏休みを私の休みに合わせてとると言っていた夫が、休みの日が決まるとたんに、「おれは休めんぞ」と言うので私が怒ったら、離婚話がでたんです。お前みたいにいるさい奴は一緒になれんと。単なる痴話げんかだと思って、「いつでも別れてあげるわ」って言った、裁判所に調停がでていて、女

性がいることがわかりました。現在は単身赴任先でばれまして、別れさせる手段で転勤を命ぜられて、また違うところに女性を連れて行って同居しています。

調停は向こうから出していたんですけれど、女性がいるというのがわかったので、取り下げるか、不調に終わったか……。初めは（夫は）別れて籍を入れたかったみたいですが、有責者からそれができないということがわかったらやめてしまっただけ、なりを潜めてちゃんとした生活をしているみたいです。生活費は婚費の調停にだして、一応今は生きています。子供はちょうどそのとき、大学受験前と、高校が決まったばかりの子がいました。下の男の子が捨てられたという感覚がすごく強く、ある日突然、自分のお父さんが他所の人の親になるのを聞いたら、相当動揺しました。転勤で出てきたので、相談相手がいずに、精神的なショックも大きかったです。

今、四十八で、年齢的な問題と実務経験がありませんので、なかなか簿記を生かした仕事がありません。

K 今のパートナーは、小学校五

年生の彼です（拍手）。子供が三歳

のときに家庭内別居で、四歳にな

ったときに夫がでていったんです。

正式に離婚が成立したのは、子供が（小学校）一年生の夏休みでし

た。子供には別れたと言って、家

を出て、二人で家を借りて生活し

ていました。三年生のときに父親

と会わせました。私の場合は、ハ

ンド紙などの情報を読んではつき

り調停で言ったんです。「あなたの

家庭がどんなことがあろうが、子

供との約束があるときに来てくれ

るんだしたら、面接交渉権を実行

してもいい。ただし、あなたの子

供や今の奥さんがどうだというの

で来れないというのは、私は受け

付けられない。仕事のことはよく

わかってはいるけれども、それ以外

の理由だったら私は拒否する。そ

れを押し通しても、この子に会い

にくるんだっただけいい。夫は「無

理やり会わせて」とは言わなかつ

たんです。結局私が病気で、いつ

死ぬかわからないような状態だっ

たので、会わせました。今は、会

いたければ直接電話しなさい、と

いうことで、子供と父親はうまく

いっています。ただ、子供は「家

庭はパパとママがいるのが家庭だ」

と言っています。

去年大きな手術をしたときは、子

供は（ハンドの）さんのところ

に預かっていただいたり、ハンド

のみんなに本当にお世話になり

ました。私は結婚したのが三十六

で、子供を生んだのが三十七なん

です。仕事は船会社でセクレタ

リーの仕事を長くしていました、

その後保険の仕事やいろいろやり

ました。年をとっても、転職をし

ようと思えばできると思います。

今はコンピュータの会社で総務と

経理で神戸支店の責任者のように

仕事をしています。ただ、会社が

いつも不安定な状態なんです、こ

れでお金さえあれば、こんな優雅

な生活はないと思っています。

M 離婚して六年たちます。（ハン

ドで）いろんなことを教えてもら

いました。保育所に行くにはどう

すればいいか、公的補助の利用の

仕方。でもヒントを教えてもらっ

て、自分の足で動きました。四十

になつてきたら、就職は絶対でき

ないよ、なんて言っていたことがあ

ったんですけれども、一歩社会に

でてしまえば見えていく人がある

のは事実。だから私も今とら

多くいただいて、扶養手当もつけてもらっています。六カ月して、働きぶりを見てくれて、特別にアップもしてくれました。

今日初めてこの会に来た方に言いたい。初めて来て円さんに会ったんだから、幸先いいわよ。私もそうだったから。

N 初めて来ました。三歳です。

今は夫が海外赴任をされていて、女の人と住んでいるんです。ちょうど一年前に離婚したいと言ってきました。当初は落ち込んで、ずっと当時二歳になった娘のことだけを考えてきました。夫は、離婚に感じなかったら子供に会ってやらないと言いだしたんです。それまで毎月一回会っていたんですけど、父親のイメージはすごくよくて、私も離れていたからいいイメージを子供に植えつけていたんです。最終的には子供を取り上げると言ってきたんです。もうどうしようもないということで、竹川先生に相談をして、年最初にハンドの会に入り、協議離婚をしようと言っています。

一年間ずっと落ち込んで、随分しんどかったんだけど、いざ離婚しようと思ったら、これでお金

さえあればこんなに自由で楽しいことはないなと思っています。ただ、日本の女性がおかれている状況があまりにもひどいなと思っています。養育費が少ない。国が取り立てて、どこへいっても送るようにしている国もある。額も上げて、そういうシステムができればいいなと思います。

N 私は九年前に離婚しまして、今一人です。よく人から「独り身はいいいね」と言われますけれども、なかなか大変で、いろんな危険性もありますし……今まで乗り越えてやってきました。親も年をとってきて、老後の問題が私の方にかかってくるので、私もしっかりがんばらなければと九年間働いてきました。もうすぐ三十五になります。仕事は、今の会社の社長から、新しく作る保険会社でセールスをやらないかという話をもらっているのですが、ぐんぐん前向きにやっています。

私は結婚生活が短かったわりに打撃が大きくて、五年間ぐらい一人でもんもんとしていたんですけど、この会にめぐりあっていただけ、もっと明るくなれたんですけども……。もしいい人と出会え

たら、またひとはな咲かせようと思っています。



仙台と埼玉の連絡係の方から報告のお手紙をいただきました。うまくいっている所、難しい所、いろいろあるようですね。

#### 仙台

一月二十七日に、二回目のハンドの会を開き、六名の参加者がありました。すべて一回目も参加したメンバーです。

今回は「仕事」というテーマで、時々脱線しながらも、和気あいあいと話し合うことができました。四十歳を過ぎてからの再就職は難しい、限られた職種しかない、給料が安い、経済的に安定するのならいつでも飛び出せるのに、それができないために仕方なく家にいるといった人もいたり。でも皆前向きで、お互いに力を合わせてやっていくという会になりました。

#### 埼玉

埼玉の方からお電話をいただき、会について問い合わせがありました。しかし残念ながら昨年十一月の森林公園での親ばく会は参加者ゼロ、私達親子二人で半日過ごし、それ以来予定がたっていないです。

お電話の方は、これから離婚への話し合いを進めるという方で、気楽に離婚について話し合える友人を求めていらしたのに、何の手助けもできなかった自分にふがいなさを感じました。自分の生活のペースの中で、できる範囲で忙しいハンドの仲間と連絡を取り合うことを初めのうちは割と簡単に考え過ぎていたと思っています。

今後の埼玉の会についても、どのようにすすめていくか、めぐりの悪くなった頭でそれなりに考えていかなければ、できるだけ多くの方と交流できたらいいな、子供のいる人、いない人、離婚問題がすっかりクリアーになって自立の道を歩く人、今話し合いの真っ最中の人、など、一体どんなお手伝いができるんだろう。背伸びしたってだめですよ。私は私のできる範囲でしかできないのだから。

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください。

へちよっと遅くなりましたが、今年皆さんからいただいた、年賀状の一言を

●別居して丸五年間。昨春やっと離婚いたしました。一人息子も一浪して大学に入り、学資として三百万円だしてもらったということで、決着しました。中学三年という一番難しい時期に、両親の都合でこんなことになったのに、ぐれもせず、暴走族にもならず育ってくれた息子に、大変感謝しております。

(横浜市・T)

●去年は本当に充実した一年でした。会社も景気が良かったので、ボーナスもたくさんいただけたし、あちこちと旅もできたし、子供達もそれぞれ社会人として自立して、独身寮住まいでがんばっているし、私は信頼できる人にめぐりあえ、楽しい語らいのひとつももてています。人生八十年の時代と言われる残された人生を、一人で生きているのはやはり味気無いものです。一冊の本を読んでも共に語

り合う人、テレビを見てもすぐ反応のある人、モーニング・コーヒーを共に飲む人……。もう一度家庭をもつてみようかと思っています。

(大垣市・Z)

●母子三人の生活も、このお正月で四回目を迎えています。今までは基礎作り、今後は自分磨きに力を入れていこうと思っています。

(川越市・M)

●離婚経験のある三十代の男子です。自分の経験した離婚がなぜ起こったのか、原因がよくわからず今日までできました。が、昨年の十月ころだったか、日経新聞に円さんの談話を引用しながら、「子離れ・親離れ」の記事がありました。これを読んで、初めて納得がいきふつされるものがありました。今年には前向きに、もう一度やり直す機会を得るべく、自立した方と出会えることを楽しみにしています。

(市川市・M)

●昨年はハンドに出会えたことで、一つ道が開けたような気がします。

まだまだ問題は山積みですが、子供と二人、新しいステップとなるような年にしたいと思っています。

(大阪府・F)

●今の会社も満一年。秘書検定二級もパスしたり生活もそれなりに落ち着きつつあります。三十歳にもなり、いよいよ人生これからが本番と思っています。(品川区・S)

●あっという間にまた一年が経過いたしました。私も満七十歳を越しますが、相変わらず清掃婦として、正社員の待遇のまま今日にいたりました。月七万円の年金と、月

十二万円余りの給料、それにボーナスをちようだいし、健康にも恵まれまして、毎日を平凡ながら心安らかに暮らしております。円さんと初めてお付き合いをしてから早八年。私も一人住まいをしてから満八年たちました。ニコニコ離婚講座を始められた年と、私の決意と出発が、何かの因縁とも思えます。離婚された弱い女の立場を踏まえての、止むに止まれぬ立ち上がり、全国の女性をふるい上げらせ、力強い歩みをますます大きくされることを祈ります。

(福岡市・D)



■東京都

M・U

初めてお便りします。私は二人の子供(小三の男子、小一の女子)と暮らしています。五年前に夫の浮気が原因で離婚しました。あところ、このハンドを知っていたらと残念に思いました。

現在、東京都の母子福祉資金を借りて、都の社会事業大学(福祉関係)で勉強しています。つまり、家族三人とも学校生活を楽しんでいます。これまでがちょっと大変でした。離婚してすぐに職業訓練校に通い、和文タイプの技術を身につけましたが、社会ではワープロが職場に進出した時期と重なり、たいした職はなく、パートをしながらワープロの学校に通い、一級を習得しました。ちようどタイプを習得した訓練校がビジネス文書課としてワープロを教えることになり、講師としての仕事ができるようになりました。一週間の半分は訓練校で講師として、残りはワー



プロのオペレーターとしての仕事  
がみつかりました。

小さな子供を育てる時期と重なり、病氣、保育園、参観日等で仕事仲間との連携もとれて、家族を大事にできたのではないかと思います。あのころの仕事仲間と友人たちに、今とても感謝しています。

でも、つらいことも新しい発見もたくさんしました。離婚したとたん、手の平を返すように、仲良くしていた人達が去っていったこと、うわさ、中傷など、今までに経験したことのない嫌な思いを味わいましたが、おかげで本音で話せる友人を得ることができ、また人を見る目ができました。

仕事を通しては、自分がきちんとした仕事をするので、女としてではなく人間として認めてほしいと思うようになりました。

離婚を経験して、私は初めて自分の人生と本当に向き合ったような思いです。離婚も様々な生き方の中のひとつの道だと思えるようになり、気が楽になりました。女だから、妻だからではなく、一人の人間として豊かに生きていける社会が必要だし、そうするためにはどうすればいいか、少しずつ活

動していきたくて願っています。

社会事業学校は、この三月に卒業ですが、福祉の現場で学び、人間のもつさまざまな差別を見せつけられ、思いを新たにしています。幸い、就職が故郷大分の特別養護老人ホームに決まりました。気持ちちはもう遠い大分に飛んでいます。卒業試験を控え気分を引き締めています。失敗を新しい出発として「これから生きてやるぞ」という思いです。

#### 文通希望

現在、離婚調停中の五五歳です。子供は独立し、私は目下パートで働いています。若いときから職歴がなく過ごし、昨年初めて社会にしました。

同じような方のお話を伺いたいと思います。お手紙下さい。



**Q** 離婚してもうすぐ三年。娘は八歳です。離婚原因

は夫のギャンブルと暴力などで、調停離婚しました。その際、養育費の約束もしたのですが、全く支払ってくれません。家裁の履行勧告もしてもらったのですが、効果なし。強制執行して給料を差し押さえても、会社をやめられればそれまでです。

何かいい方法を教えて下さい。

**A** 家裁の調停調書で養育費の約束をしても、あなた

の元夫みたいにまるっきり払わない人がいます。そういう人に対しては、やはり強制執行しかないと思います。会社をやめるかどうかはわかりませんが、もしやめてもいいじゃないですか。何もしないよりは、一、二回でも給料を差し押さえられる方がいいと思いますよ。

あなたは「こちらが強い態度に出ると暴力やイヤがらせをするタイプの人なので、とても不安」と書かれています。あなたがこわがっているのはダメ。正しいことを要求するのですから、

堂々と恐れずに。

なお、あなたは一生続けられる仕事として看護婦をめざしておられるようですね。ただ三年間の看護学校生活中、収入が途絶えることを心配されているようですが、方法はいろいろあるのではないのでしょうか。病院を手伝い、給料をもらいながら、看護学校に通うことも可能だと思います。お子さんの世話と仕事と学校では大変ですが、あなたの今の気持ちを大切に、ぜひ看護婦の資格を取るべく勉強して下さい。私の知人で、四〇歳近くになり看護学校に通い資格を取り、五〇歳すぎの今も元氣ハツラツで働いている人がいます。ガンバッテネ！

井護士 松尾道子  
☎06-316-11768





第五八回 札幌市 Hさん

家族構成

私 三三歳(事務員)

娘 五歳

住居

公団賃貸住宅(2DK)

五年間の結婚生活の間、夫との価値観、人生観、感性の不一致を私のみが感じ、将来への自分達の在り方に見切りをつけ、一歳半の娘を連れて家を出ました。わがまま、との声も聞かれましたが、広くて暖かく快適な持ち家から、日当たりの悪い、冷蔵庫の中のように寒く狭いアパートに移っても、私の心は春の日差しを受けた花のようでした。これからは自分の心でねじまげずに、自分らしく生きていけるんだ、と思うと、心からよろこびを感じました。

しかし、世間はそれ程甘くはな

### 家計簿内訳 (1月分)

[収 入]		
給料(手取り)	120,000円	
児童扶養手当	34,000円	
	計	154,000円
[支 出]		
住居費(家賃、管理費)	32,000円	
光熱費(灯油代含む)	13,000円	
電話代	3,000円	
食費	30,000円	
雑費	10,000円	
靴、被服費	12,000円	
新聞、本代	10,000円	
医療費(私の歯)	1,000円	
子供費(衣類、習い事)	10,000円	
教養、娯楽、交際費	25,000円	
生命保険料	8,000円	
	計	154,000円

※ボーナスは子供の半年払いの学資保険と貯金

く、野越え山越えここまで来ました。今の会社は昨年二月に入ったのでまだ給料は少ないのですが、九時〜十七時の残業なしなので、子供の為には一番です。残業があったり、時間帯がもっと遅い仕事なら、給料もよく自分のやりたい仕事もあったのですが、子供の心を一番にしたかったので、今のところはこれでよし、と考えています。でも、いつかはもっと飛躍しよう、と、あせらず、たとえ亀の歩みでも努力は続けています。

その費用が、本代であり、教養娯楽費に含まれる市のセミナーやTA(交流分析)という心理学の講座の受講料です。これは、今の私を元気に、そして将来の自分にかける大切なものなのです。

休日、スキーによく行きます。自分と娘、二人分のスキーを自分でバスで行きます。背中には二人分のスキー靴とおにぎり、みかん、飲物をしょって行くので、経費はバス代の三百円のみです。山の中腹でおにぎりをほおばり、「お

かあさん、おいしいねえ」と言う娘の笑顔は最高です。

先日、保育園の先生に、「お休みにあちこち連れていっているようで、おかあさんががんばりますねえ」とほめられ(た、と自分では思っている)、逆境には強いが、情とおだてには弱いと言われる私は、ますます元気になってしまいました。

食費はお弁当代も含み、外食はしません。おかずも極力手作りです。お菓子、ジュースは一切買わず、飲物は牛乳か手作りジュース(梅ハチミツジュース等)。食後の果物は欠かしません。食べることと遊ぶことには手を抜きません。(一番の手抜きは掃除……もうお嫁に行けない?)。そのせいか、娘はこの一年間、一日も保育園を休まず元気に通園し、多少(?)きかんぼでも、一番の親孝行です。

昨年三月に公団の賃貸住宅に移りました。エレベーター無しの上階なので重い物を運ぶ時などにはシンドイですが、「お山が良く見えるよー」と、よろこぶことにしています。

子供には、人の痛みがわかることと、私のように(?)困難に会っても乗り越えていける強さを持った人間に育ってほしいと思っています。



# 元気印の女たち

「元気印の女たち」第四回は、清原美彌子さんです。

★

清原美彌子さん

六十八歳。主婦と生活の編集長・編集顧問等を経て、現在、社友。ライフアドバイザーとして活躍する一方、テレビ・講演活動にも多忙。話術も書も一流で魅力にあふれる。

その書の個展が六月十一日～六月十六日、東京銀座ラ・ポワラ二階ギャラリーにて開かれる。  
☎〇三―五六三―五五〇―



円 ハンド・イン・ハンドで、シングルで生きている元気印の女たちをずっとインタビュウしているんです。第一回は小西綾さんだったんですけど、お金を残してまつまらないからと、シニアハウスを作ったり、これはと思う女の人に投資をしているそうですが、清原先生は「子供」に投資なさったとか。そのお話を聞かせて下さい。

清原 かなり前から、私には子供もいないし、でも社会の役に立つ形で何かを残したいというような思いがありましてね。いろいろ考えていたんです。そのひとつとして、他人を思いやる優しさ、つまり人の善意に対して報えるようなもの、そんな基金を作れないかと。人の善意というものを評価するということとは、非常に難しいということから……。

たとえば車いすに乗る人、それから車いすを押す人、これで善意が成り立つとする。象徴的に言いますと、車いすに乗る人に対する優しさ、つまり福祉は、行政面で

するべきだと思うんです。車いすというグッズを買うのもこれも行政面の予算をとる。ただ、ボランティアで車いすを押す人、つまり人間の善意ですね、この善意というはかりえない、目に見えにくいもの。ある人はそれを善意と言っても、ある人はときに売名行為というかもしれない。

いずれにしても、世の中というのは、①車いすに乗る人、②車いすという道具、③車いすを押す人、この三つに分かれると考えると、私はやっぱり車いすを押す善意の方にお礼を申し上げたい。それは私自身の一種の免罪符でもある。つまり私自身は体の不調のために行動できないから、罪滅ぼしと言ったらおかしいけれど、その代わりに労働をもって人のために尽くしている方々に、感謝の気持ちで慰労してさしあげたい、そんな費用に使っていただきたいと某銀行筋に話をした。

公益信託というのがあるんですね。日本ではまだ少ない。このごろ金融関係が積極的にそれをやり始めたのは、官報に発布されましたね、要するに反永久的に国家が管理してくれる。それなら私が死

んでも私自身の希望は遺産として残されるわけです。そこでまずこれを厚生省にもっていったら、窓口にはなかなか通じない。人間の善意を測ることは難しい。前例がない。あっちの窓口、こっちの窓口へいけ。交渉に当たっていた金融関係がいささかギブアップしてしまっただけですよ。二年かかりました。

円 ひどいですね。

清原 しかもこういう、私自身の、まあ善意というものも、お役所の許可制という形で扱われる。で、まあいろいろありました。このたび私の居住地である武蔵野市で、「青少年善行表彰基金」という基金に実ったんです。最初に考えていた、ボランティアの人達の善意にというのとは違ってしまったけれど、子供達の未来のために、子供の善意に対してなにかこぼろびをあげるという、そんな形になったんです。

円 基金として出された額は。

清原 はい、三千万円です。これを種にすれば、毎年花と実、つまり百五十万くらいの利息を使えるんです。

円 大変な金額ですね。

清原 ええまあ。別荘買えとか、マンション買えとか毎日勧誘の電話があるし、基金を作ったことを知った人の中にも、それより外国で何年も遊んだら……なんて言う人もいましたけどね。私は私の思うことに使いたかった。日常的に私の生活は全く質素でし、オカネに執着はありませんね。

でも大変でした、これは。母がためておいてくれた貯金を種にして……。十何年前に五百万円くらいあったのを手をつけずに増やしたということが、強いて言うならば、自分で自分をほめることができる意志力ですね。

円 すごいわ。

清原 それはね、私自身が子供を一人も生まなかったでしょう。一人もてば、それはかかりますよね。特に私立にいかせれば。だからそう思って、多くの子に少しでも益するものがあればということですね。とにかく最近、あまりに



もダーティーなニュースばかりが多いでしょう。

円 本当に。今、高齢化社会で、もちろん年を取っていく人達の対策も大事だけれど、子供の人権が残念ながら、おき忘れられている気がしますね。

清原 そうです。私はいつも言うんだけど、子供に家とか物やお金の財産を残すんだったら、クリーンな地球を残すべきだと思うの。日本だけとか、私だけの幸せではないの、これからは。みんな全部つながった、グローバルな地球上の幸せがなかったら、個人の幸せだってないわけですよ。私は地方講演などでいつもお母さん方皆さんにお願いしています。美しい環境を残してあげて……と。

昔の良寛さんの歌で「形見とて何か残さん春は花夏ほととぎす秋は紅葉葉」っていつているのね。それは良寛さんが貧乏で墨染の衣しかなかった。なにも信者の人達に形見として遺してあげるものがない。でもこの大自然は、私の意志を超越して最高の財産であると。この良寛の歌が今の時代にぴったり合うんですよ。形見とて何を残さん、子供達にお金や物や金塊、ダ

イヤモンドを残すよりも、本当に春は花、山ほととぎす、秋は紅葉を残すべきであって、親達はそれをこそ財産にして、緑を破壊してはいけないということをもみんな考えなければいけないんじゃないかしらね。このままではかわいそうですよ、二十一世紀を迎える子供達は。

円 いいことをなさいましたね。その先生の趣旨がちゃんと生かされていけばいいけれど……。

清原 多少、自己満足になることもあるでしょうけれど、でもこれは私の人生のロマンの実現という感じですね。自分自身の念願でもあったから、ささやかな……。一方、何度も言うように、シングルライフで子供をもたなかった人間の、一種の免罪符としてこれを使ったということ。それは人間弱いですからね(笑)。残すべき我が子供を残せないから。で、ファンドに固執したわけですよ。

やっぱり後世への責任というのを、なんらかの形で皆さんもっているわけでしょう。フランスの哲学者のラ・ブリュイエールという人が、「最高の快楽は他人を楽しむことである」って言っている

んですね。楽しませるという意味はいろいろあるけれども、やっぱり日本流に言うところ、情けは人のためならず、ですよ。自分に精神的に返ってくるということもありますしね(笑)。

報道関係の人達が、「清原さん、そんなに出しちゃって後どうやって生きるんですか」って、みんな心配するの(笑)。でも、私そんなにぜいたくしませんからね。別に別荘が欲しいとか、何億のものを買おうなんて思わないから。でもこの間、この寄付行為に対しておカミから「紺綬褒賞」というのをいただきましたよ。



円 先生の生年月日は。

清原 一九二二年の十月八日。とりどしの天びん座です。本当はバランスいいはずなのに、私は割と片寄った運命なんです。片寄ったということは、平凡じゃないということなの(笑)。動きが普通じゃないという感じ。

円 やっぱ芸術家の血をひいていらっしゃるんですね。

清原 生まれた時から父(洋画家)が、この子は女として育てない、人間として育てる、と。

円 当時としては、とてもすごいことですね。

清原 うちの父が私の今日を作ってくれたとさえ思っています。父は私がまず男だと思っていたのに女だった。がっかりしたらしいですよ、生まれたとき。だけど(父が)母に宣言したのは、おれはこの子を娘として育てない、人間として育てるからお前もそのように同調せよ、と言ったらしいんですよ。

父は貧乏な芸術家でも非常な自由人でしたから、私が年ごろになっても、結婚話がおきても知らん顔、というよりも文句をつける。母は「どうして娘の結婚にいちいち反対するんですか」って……。事実、私はその気はぜんぜんないし、戦争中男が減りましたし。

円 好きな人はいなかったんですか。

清原 いえそれは、いろいろあるわけだけれど、結婚ということになると私はいやでした。父は、どうせ嫁いだって、別れて帰ってくる、自我が強いから。

円 先見の明があったんですか(笑)。

清原 先見の明。だから複雑な

手続き取らなくてよかったの。

円 そうですね。私にもそんな賢明な父でもいれば結婚しなかったのに(笑)。

清原 それでもね、男と女が世の中にいる以上は、恋する、愛する、友達になるということとは、十分あり得るということは認めていましたよ、父は。ただ、何でもいから自分のやったことは責任をとれと、それだけ。お金も自分で稼いで何でもやれ、と。ただ、兄貴は家庭教師のアルバイトをして東大をでているんです。私は、伯父が三越の重役をやっていましたから、「医者になるならお金をだしてやる」と。でも私は医者はお金のため、結局伯父のすすめで三越に入るということで、文化服装学院へ洋裁とデザインの勉強をするために入ったんです。

これも結構、私好きなんです。それで、主婦と生活社へいく前の戦争中に三越に勤めていたんです。



婦人服のデザイン部にいた。そのうちに、だんだん戦争が激しくなりまして、奢侈品禁止令、贅沢品禁止令……刺しゅう物を使っちゃいけない、といった、政府からのお達しが出始めた。そんなのおもしろくないと言って、わたしは、三年ちょっといて、三越を退いちゃったんです。

円 おいくつでしたか、三越に入られたころは。

清原 十八ぐらいかしら。それを辞めて、すぐ徴用がきたわけ。三越にいきながら、奢侈品禁止令で私はデザインの仕事ができない。お茶と書道を始めたわけ。国賊ですよ、当時は。お茶と書道という、なんの生産性もない世界に、ここで作ってみよう。いつ死ぬかわからないから。案外私は昔から、ストイシズムと、精神主義的なものがあつたから、そういう世界に入って、自分を精神的に鍛え、慰め、戦争から逃避しよう……。

で、徴用にかかる心配があるというので、弟の小学校の教頭先生を知っていて、あなただったらすぐ、明日から武蔵野第二国民学校へ来て下さい。今日までお茶とお習字やっていた人間が、明日から

壇上に上がりましたね。校庭の高いところに上がってあいさつして、「はい、今日から先生は皆さんとお勉強を一緒にします」。最初は三年生をちょっと受け持って、昭和十九年の四月に一年生。翌二十年の四月に二年生になる子供達を置いて、私は北海道に疎開しているわけ。今もこの教え子たちとは、年に一回ずつ「わらべ会」という、名で集まっていますよ。

で、そのころ父が、もういやだと言うの。日本は負けるのに、東京でこういう生活をしていて。絵を描いていることもできないと。父方の伯父が、帯広市の隣の芽室という町にいたんです。そこに父と母と弟と私と四人で疎開したんです。兄貴は理科系でしたから、飛行機の材料を作る日本軽金属という会社へいった、外地へはいかなかったですけれど。昭和二十年五月の二十日に東京を発って、六月の四日に着いて、その翌日からまた芽室国民学校の先生をしているわけ。そして八月十五日に終戦を迎えました。

円 それでまた帰ってらしたんですか。

清原 帰りたくて、帰りたくて。

戦争がすんで時代が変わればいよいよ自分の出番だ、と。でもそのころ結婚話も起きているのよね。おもしろい男もいたけれども、父は絶対だめ。

円 お父様は手放したくなかったんですね。

清原 それは三分の一はありましたね。

円 かなり仲のいい親子関係だったんですか。

清原 うん……でも私は絵かきになるんじゃないかと言われていて、父に絵を習ってものすごく父とけんかをしました。お前は絵はだめだ、書をやれ。それで書も、父からすすめられているんですよ。それから書で飯を食うなど。書で稼ごうなどと考えると、字の品が悪くなるから趣味でやれ。そういうことでやってた書が、おかげさまで今日まで楽しみにあるわけだけれど。

いずれにしても、終戦後の二十



年の初めというのは、いろいろ辛かったけれど、私は考えた。いよいよこれから自由になる。女の時代もくるし、みんな人間が自由になる。人間が何を言ってもいい、何をしてもいい。

円 そういうふうに着てられてきたのに、周りはどうもそうでない方向にいつているという、生きづらい時代だったんですね。

清原 何と言ってもまだ、全体主義の時代でしょう。お国のためという、そんな感じだったでしょう。私は今でもお国を考える人間ですけれども、ただ、お国にしばらくられる全体主義の中の一員、というのはいやでしたからね。だから、これからは、戦争がなければもうどんなに苦しい時代があったって、自由がある。やっぱり自由でない苦しきというのは、大変なものですよ。

円 先生が微用逃れをしようとか、お茶やお習字をしようというのは、ある種の反抗だったわけですね。

清原 そうです。だから、国賊、当時は「非国民」と言いました。でも私にしてみれば、書や茶道の世界に自由の感性は限りなく広がっ

ていたわけ。

円 とにかく戦争が終わって、自由で、なにかできるという感じが強かったわけですね。

清原 それで、私は本当は人形制作とか染色を考えました。やっぱり父の子ですからね。



円 主婦と生活のときの初任給を覚えていますか。

清原 昭和二十一年の会社の記録では、私、七月三十一日に入社になっているの。実際は五月の創刊の月に入っています。新聞広告で。実はね、今のニコライ堂の下に、ある出版社があったの。そこを受けて、筆記試験をパスしたのね。主婦と生活の方は、今言うイラスト、当時カットって言ったんだけど、「カット描き」を募集というのだったのね。そうすれば時間があるからなんでも他のことができると思ってカット描きに応募したの。主婦と生活社は荻窪にあったんですが、戦地帰りの兵隊のカキ色の洋服を着ているおじちゃんたちやおにいちゃんたちが、ずらっと並んで、だれも女がいらない。私ひとり。学生時代や文化服装学院で作ったり描いたりしたも

のをもって並んだの。これはだめだ。みんな男の人ばかりで、私なんてとても入れないと思った。そうしたら、なんと私だけパスしちゃったの。それでニコライ堂の下の方を断った。

それで、主婦と生活社の試験官にいくらくれるか聞いたのね。そしたら、まだなかなか賃金体系も決まってません、って言うのね。入社試験の面接のときに、そこに社外から電話がかかってきた。試験官がちよっと席をはずして誰もいない。そこで私は自分が社員みたいに電話をとって「もしもし主婦と生活でございます」こう言ったわけ。それを奥で聞いていた、亡くなった前社長が「あの女性にはなかなかな本物だ」と。まあそれもプラスしてパスしちゃったのね。

円 なるほど。でもやっぱりね、光る人って、ちゃんとやれるのわかるんですよ。初任給はいくらだったんですか。

清原 私は当時、「ズック靴は一足百円ですから、五足分五百円下さい」って言ったんです。そして「よろしい、渡しませう」。それで入ったところが、なんと先輩

が三八〇円だったの。それを聞いて、私はどうしようかと思った。一カ月くらいですけれども、やはり先に入っている男の人も三八〇円。自分は一二〇円分多いんだから、私は二百円分ぐらい余計に働けば、会社は損をしないだろうと、こう計算したわけ。そしてその人達の上役になっちゃった。このへんが厚かましい(笑)。

円 ズック靴でも高かったんですね。

清原 二十一年の一、二月ごろだったら、三十円か四十円だったと思いますよ。ぼんぼんぼんぼん値上がっていましたから、当時は、月給だって、倍倍ゲームでしたよ。すぐ、二、三千円になりました。

#### ♥電話相談員募集

前号で相談員の養成や研修について案内を出しましたが、既に他講座で勉強し戦力にすぐなれる方が多いため、相談員対象の勉強会だけに企画を変更しました。相談員としてボランティアをして下さる方は第三土曜日の午前九時半〜十一時半の勉強会に出席して下さい。(費用は無料または一回千円。詳細は星野まで)

円 先生が入ったとき、主婦と生活社の社員は何人だったんですか。

清原 十五、六人で、実はその当時は新元社といっていたんです。

円 おもしろかったでしょうね。清原 おもしろかった。毎日毎日、編集の皆さんと談論風発しながらね、残業費なんてもらうどころじゃないですよ。もうおもしろくておもしろくて……。それで私はなにをやったかというと、ファッションブック。スタイルブック

と言ったんです、当時は。それを出版したら、ぱっと売れちゃった。再版したくても紙がない……。六号までやりました。実は自分でもスタイル画を描いたんですよ。そのころは写真がなかったから、スタイル画なんです。自分で本を編集して自分で絵を描いてデザインの説明書いてね、デザイン、営業全部やったの(笑)。

円 編集長になられたのが、昭和四十年ですね。清原 四十年。そのときは本当に出家したつもりで、うちの家族に言いましたよ。うちに帰れないことも多いと思う、と。今の編集長と違うの、当時は。まあ、命が

けっという感じでした。

円 その頃がちょうど日本が高度経済成長期に入ったころですね。三十九年が東京オリンピックで。先生が編集長になられたころの『主婦と生活』は、とても売れてたんでしょう。

清原 いえいえ。昭和三十四年に我が社に大ストライキがありましてね。婦人四誌の中でびりっかす。ストライキの後遺症が十年続きました。それから私が昭和四十年に編集長になったときに、四月号にレース編みの付録をつけて、爆発的に売れた。販売担当の役員が仙台から電報よこして、めちゃくちゃに売れていると。幸先よし。編集長がなればと、電話ならざる電報がきたんです。

円 そしてたった一年でトップに躍り出た。

清原 一年かからなかった。昔のことですが、これは業界の方も認めて下さっていますよ。

円 そうでしょうね。

清原 本当にそのころは血を吐く思い。ただね、人生なんて生涯を通じていつも好調じゃないのよ。波があつて、私はそういう意味では、そのころ大変いい波

乗りをさせてもらった。編集長時代の約九年間は私の人生の中でも、まあ輝いていた時期だし、プロの厳しさというものも体験できたと思っています。

円 だって男の人だって、そんなにおもしろい人生……。

清原 今と違って雑誌も少なかったし……。今は女性の編集長はいっぱいいますけれども、婦人雑誌なのに当時女の編集長ははじめてだったんです。だからあっちこっちからインタビューを受けました。でもあまりの日々の緊張で、いっそ夜寝たら朝起きなければいい、つまり夜中に死んじやったほうが楽だと思ったことが何日か続きましたよ。疲労困ぱい。

#### ♥長岡と岡山近辺の方へ

☆五月二十八日は新潟県長岡市の中央公民館で(午後六時半〜)、六月二十三日は岡山市の総合福祉会館大ホールで(午後一時半〜)円より子が講演します長岡、岡山の方々、これを機にハンドの会を発足させませんか。

円 話が戻りますが、戦争が終わって先生は、「何かできる」とお感じになったけれど、女性の多くは結婚という形をとったんじゃないでしょうか。それをすぐ、人形とか染色とか、どこか出版社に入ろうとか、ぱっと仕事に結び付いたというのは、やっぱりお父様の教育ですか。

清原 あのね、当時は結婚というものに対する考え方が、女は男のために尽くす、男の一種のサブ的存在というのが通念だった。しかも私は非常に義務感強いほうですから、おそらくそういう生き方を真面目にやったと思うの。

円 結婚してしまつと、自分を抑えて相手を立てると言う……。

清原 独身者はシングル、結婚すればダブルというでしょ。私は結婚してもダブルではなくてシングル+シングル、あるいはシングル×2というように考えたい。つまり男女ともに人間そのものとしてのシングル性を変えないし、相手のほうのシングル性も尊重する、という結婚観です。でもこれは、男女対峙の姿勢ではなく、逆に男女理解、尊重という考え方が前提です。だから、私はダブルにはなら

なかったけれど、シングル対シングルとして、男の人とは随分おつきあいをさせていただきました(笑)。

円 今の生活を教えていただけますか。会社には週に二日いらしているんですか。

清原 そうですね、月、木曜。

円 主婦と生活社での肩書は。

清原 社友でライフ・アドバイザーです。

円 随分お電話がかかってきて、いろんな相談を受けていらっしやるんですね。

清原 全くいろんな世間がわかりますね。円さんのところと違って、私のところは本場にくず箱をひっくりかえしたみたいで、いろんな相談がきます。

円 嫁姑とか多いですか。

清原 嫁姑問題も多いですが、今日なんかは全部、十八から二十三歳の若い人。『She's』の読者で恋物語(笑)。彼がこう言った、あ言った。コレほんものの恋でしょうか……なんて。

円 恋の手ほどきやら嫁姑やら、いろんなものを……。先生の声を聞くと、励まされるような気にな

るんですよ。あと講演でしょう。それにラジオ、テレビ。それから月二回、私も不肖の弟子ですが、お習字を教えてらして。これはまあ、頼まれて仕方なくというところもお強いですよ。先生に託してお習字は生きがいと言っているのでしょうか。

清原 そうね。愉しさと厳しさ、両方の世界ですね。厳しさ、辛さのあの達成感。それが快感なんですよね。だから快楽では決してないんです。悦という言葉が適切ね。快楽ではありません。音の世界の場合は、快楽という感じもあるでしょうけれど。愉悦ですね、せいぜい言うならば。

私は、体力があったらいろんなことをしたいと思いますが、でも今の体力だったら現在の生活のサイクルがちょうどいいですね。ご相談のお客にはなるべく人様にありうように努めているんですけど、自分のエネルギーがないときには、心ならずもつめたくならざるをえないですね。

円 そうですね。エネルギーがないと、人の相談にはのれないですよ。

清原 円さんもそうでしょう。

円 そうですね。自分が元気でない人に優しくはできないし、人のことは聞けないですね。でも先生はとても聞き上手。大病もなさったのにどこからエネルギーを。

清原 私はね、父の見た見通しの通り、非常に自我が強い人間なんです。この前の本「幸せは南にあり」ってつけたんですけれども、これも父の教えた言葉なんです。この言葉の由来は、昔偉い坊さんがいて、弟子どもを相手に質問をした。「人間の幸せとは、東西南北、何れにありや」と。弟子たちは答えられない。するとその高僧いわく、「南にあり、と。みな我が身のうちにあり。即ちみな我が身、みな身、ミナミ・南にあり」と。父はこれを覚えておけよと言った。私が小学校四年生くらいのときですよ。それと「信ずれば成り、憂えれば崩れる」という信念もエネルギーのもとでしょうか。





円 今回の私達の調査で、老後は誰と暮らすかというとき、子供とは同居しない、一人でという人が多かったのですが、シングルライフのコツと言いますか、孤独とうまくつきあうとか、そういうものはありますか。先生はシングルと言っても、二世帯住宅で下に弟さん家族がいっぱいいるし、全くの一人っきりではないですけど。

清原 そう、少なくとも今は一人きりではないです。もし本当の一人暮らしだったら、やっぱりだいたい言うことが変わってきたと思いますが、それでも結局はやっとなんか思いますが、具体的にどう頼ろうとは思わないけれども、例えば彼らが旅行に出て全然いなかったら、あっ、こういう感じが毎日だったらやっぱりやだろなあと思いますね。

私はもしシングルライフをすすめるなら、まず決断力をもつことね、自分に。要するに、何でも人に相談して決めたがる人……これはダメ。それと、一人遊びができること。つまり時間さえあれば、なんかしたいことがある。趣味っていうのはそういうものでしょう。時間があればやりたいわけでしょう。

う、それを。だから私なんかも、時間さえあれば書もやりたい、本も読みたい、片付けものもしたい。要するに、孤独時間を意識する暇がないわけ。老人には、子供返りというのがあると思うんですね、幼児返りというのか。その中で一人遊びができるということは、非常に必要なことですね。

円 なるほどね。高齢化社会になればなるほど、そういう人のほうが充実した老後を暮らせる、と。

清原 人が見てなんと笑おうと、関係ない。いつも他人のことが気になる人は老後は不幸ですね。

円 マージャンとかテニスとかだったら、相手が必ずいますからね。

清原 子供でも教育上、一人遊びというのは必要なんです。

円 それで先生は愉悦を感じるような遊びがあるんだから、最高ですね(笑)。

清原 どうも少々かっこよすぎちゃったりして(笑)。よく皆さんが、さみしいと思うことありませんか、って聞かれたら、全くないの、私。ただ、夜寝ているとき、睡眠に入るとき、ほんの瞬間なんとも言えない寂寥感を意識すること

がありますけれど、これは傍らにどんな優しい人がいようと、人間として避けることのできない当然の生理的感覚じゃないかと思っています。生きてる証拠ですよ、これは。

ところでこんど書の個展をやりますので、もし会員の皆様にご覧いただければうれしいのですが……。

(個展の詳細は九頁の囲み参照)

#### みなさんありがと!

■ 広くなった事務所に四月から専属スタッフが加わり、わが分室は役割を終りました。

三年余、主に会報発送に関わる事務処理を担当していましたが、皆さんには、手違い等御迷惑をかけた方もあったかと、深くお詫び申し上げます。

この間、私事では幾度か予期せぬ事柄にぶつかり、ハンドの仲間には、私にない知識をもった方たちが多く、あの人の人にと声をかけてはアドバイスをいただき本当に助かりました。この体験は私の中で貴重な資産となって、今

#### ■事務局便り■

季刊誌の準備、着々と進めています。今しばらくお待ち下さい。

四月二十九、三十日の子供会宿は大人子供合わせて三十名近い参加予定がありましたので一応締切ります。キャンセルがあった場合のみお受けします。(円)

後に生きることでしょう。

しかし、心身の疲れは、更年期と重なり、どうにも軌道修正出来ずにいましたが、体力、能力をセーブ出来る職種を考え、能力を二ランクほど下げた転職によって、どうにか克服出来たように思います。五十肩も治って、長いトンネルから出口が見えて来たようです。

四月で五十代の仲間入りです。変動の多かった四十代の経験を土台に新しい年代には、体力と相談しながら、心豊かな日々をすごしたいと考えています。ご協力ありがとございました。



## ニコニコ離婚講座

第一一五回は四月二十八日(土)飯田橋セントラルプラザで。一一四回は三月三十一日(土)千駄ヶ谷社会教育館。いずれも一時半〜五時。希望者は電話で予約を。

☎〇三(四〇二)七三五四

## 会合のお知らせ

## ☆東京の会合

四月は円より子の表記事務所で二十八日(土)午後五時半から発送をします。みんなでワイワイとししゃべりしながら楽しくやりましよう。ぜひ協力して下さい。

## ☆大阪のニコニコ離婚講座

四月二十五日(水)一時半。大阪府立文化情報センター(住友中之島ビル5F)参加費は千円。●五月例会は四日(金)の祝日、六甲山へのピクニック。十時半、JR六甲駅北口バスターミナル集合。

## 離婚制度研究会のお知らせ

第十二回の研究会を四月十日(火)、

午後六時半。千駄ヶ谷社会教育館2Fで。土井良多江子氏の「母子相談について」。参加費千円。



♥四月二日からTV朝日系全国ネットで正午から新番組「ホットライン110番」が始まります。毎水曜日は円より子があなたの相談にお答します。電話ですので名前も不要、声も変えることができます。三月二十六日から受けつけます。どうぞお電話を。〇三(五八四)三八〇三(月〜金十三時〜十六時)

## ●ハンド 求人案内●

「ニッセイ」(NISSAY)にあなたの自立をお手伝いさせていただけませんか? 勇気をもって飛び込んでみましょう!! ぜひ一度新宿NSビルでの会社説明会に参加してみてください。詳細は御一報いただければ資料をご送付させていただきます。東京都新宿区西新宿二一四一

新宿NSビル6F

日本生命新宿NSビル支部

担当 守屋 迄

☎(〇三)三四二一〇七三〜四  
お待ちしております。

## ☆離婚一〇番

〇三(四〇二)七三五四  
〇三(四〇二)四三八五

電話相談は第一、第三土曜日が午後一時〜四時。第二、第四、第五土曜日が午後七時〜十時。

## 購読料について

現在つぎの三通りの方法をとらせていただいています。

- ① 一年間三〇〇〇円(送料共)
- ② 二年間まとめて前払いしてください。二年年分、六〇〇〇円のところを五〇〇〇円に。
- ③ 出世払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出てください。それぞれ出費が多く大変でしょうが、期限切れの通知の入った方、またはこの折りにという方、いずれもご都合のよい方法でどうぞ。

(振込先) 各地の郵便局にて振込用紙は無料でもらえます。  
東京一四二二〇五四二  
ハンド・イン・ハンドの会